

# 事業事前評価表（開発調査）

作成日：平成18年12月5日  
担当グループ：都市地域開発・復興支援第二G

## 1. 案件名

ブルンジ国ブジュンブラ市都市交通改善計画調査

## 2. 協力概要

### （1）事業の目的

都市交通計画の策定及びバス公社に対する技術協力、ならびに人々が平和の配当を早期に実感できるよう実施する都市交通事情の改善を主とする緊急事業により、ブジュンブラ市内の経済活動及び生活の基盤を強化する。

### （2）調査期間

13ヶ月

### （3）総調査費用

3.8億円

### （4）協力相手先機関

責任機関：公共事業・機材省道路局

実施機関：公共事業・機材省道路局、バス公社

### （5）計画の対象（対象分野、対象規模等）

ブジュンブラ市

## 3. 協力の必要性・位置付け

### （1）現状及び問題点

ブルンジは、1962年にベルギーから独立して以来、首都ブジュンブラ市やギテガ市を中心に発展し、1980年代には世銀・IMFの構造調整融資を受け入れることで農業セクターやその他経済セクターを中心に成長を遂げた。しかしながら、1993年以降の13年間の内戦ならびに、1996年から始まった周辺諸国による経済制裁のためにブルンジの経済は停滞し、国内のインフラおよび運輸交通網の整備・維持はほぼ不可能な状況にあった。2003年の最大のフツ武装勢力（CNDD-FDD）、本年のアルーシャ和平合意に唯一未署名であった反政府勢力（FNL）との和平合意の締結を受けて、復興に向けた動きが本格化しつつある。

首都ブジュンブラは人口約40万人を有し、政治、経済活動の中心地であるが、基礎インフラとりわけ道路の状態は悪く、市民の生活環境の改善ためにリハビリが必要な状況である。今後ブジュンブラは復興期における経済活動の進展により増大が見込まれる交通需要に対し、道路の容量不足、不適切な道路ネットワーク、道路構造及び交通管理等が原因となり、既に、中心部で交通渋滞の発生が見られ始めている。また、ブジュンブラ市内の市民の足は主に民間のミニバスが使われ、ブジュンブラ市内と地方都市を結ぶ公共交通サービスはバス公社が提供しているが、過去にわが国が無償供与したバス公社のバスの老朽化ならびに維持管理の問題から、有効に機能していない状況であり、地方経済の活性化のためには、バス公社による公共交通サービスのリハビリが必要不可欠である。

### （2）相手国政府国家政策上の位置づけ

本調査は、I-PRSPで示されている7つの重要課題の1つに位置づけられている経済成長のための環境整

備に貢献するものである。

### (3) 他国機関の関連事業との整合性

EUにより、ブジュンブラ市中心部における幹線道路修復（距離：14km、予算規模：1400万ユーロ）が行われる予定である。また、ベルギー政府の支援による市内Nyakabiga、Bwizaの住宅街の道路舗装・下水路修復（予算規模：35万ユーロ）、世界銀行の「道路ファンド」による市内の道路修復等が行われる予定である。

### (4) 我が国援助政策との関連、JICA国別事業実施計画上の位置づけ

2006年6月に実施されたブルンジ国との政策協議において、我が国は（ア）「平和構築」、（イ）「基礎生活環境改善」を対ブルンジ支援の柱と位置づけ、これらの横断的課題としてインフラ整備・人材育成を支援していく旨先方政府と合意した。本案件は、首都ブジュンブラの都市交通網の整備を行うことにより、社会・経済の復興プロセスの促進を図り、前述の「基礎生活環境改善」のインフラ整備に資するものである。

## 4. 協力の枠組み

### (1) 調査項目

1) ブジュンブラ市の都市交通に関する既存の計画のレビュー及びブジュンブラ市の現況ならびに経済／生活基盤調査

- 現況土地利用の把握
- 交通関連法令／政策のレビュー
- 対象地域における交通分野に関する既存／実施中の計画、プロジェクトに関するレビュー
- コミュニオン単位での社会経済状況の把握及びプロファイルの作成
- 道路インベントリー調査
- 交通特性と需要および都市交通システムにおける制約と問題点の特定

2) 計画フレームワークの設定

- 土地利用計画の見直し
- 社会経済フレームワークの設定
- 交通需要予測（交通量調査）の実施
- 都市交通計画の基本方針の設定

3) 都市交通計画の策定

- 貧困層及び帰還民のアクセス改善の検討
- 都市交通計画の策定
- 実施体制の検討
- 代替案の比較検討
- 経済分析・財務分析の実施
- 事業計画の作成

4) バス運行計画、バス修理計画、修理機材修理計画の策定及び技術指導の実施

- バス運行計画
- バス修理計画、修理機材修理計画の策定
- 車輛整備技術指導の実施

5) 都市交通・道路に関する緊急リハビリ計画の策定

6) 緊急リハビリ事業の実施

7) 結論と提言

### (2) アウトプット（成果）

- 1) 都市交通計画
- 2) 土地利用計画
- 3) バス運行計画、バス修理計画、修理機材修理計画
- 4) バスの修理技術指導
- 5) 緊急性の高い事業（道路の復旧等）の実施

(3) インプット（投入）：以下の投入による調査の実施

(a) コンサルタント（分野／人数）

1. 総括／都市計画
2. 社会経済調査／コミュニティ開発
3. 都市交通計画／公共交通計画
4. バス運行計画
5. 車輛維持管理計画／車両整備技術
6. 道路設計
7. 自然条件調査／施工監理
8. 環境社会配慮
9. 調達事情／事業費積算

(計9分野)

(b) その他

特になし

## 5. 協力終了後に達成が期待される目標

(1) 提案計画の活用目標

策定された計画が順次実施されること

(2) 活用による達成目標

ブジュンブラ市における交通渋滞の緩和、移動時間の短縮、公共交通サービスエリアの拡大、公共交通サービス網の拡充、バス稼働率の向上

## 6. 外部要因

(1) 協力相手国内の事情

首都ブジュンブラの治安情勢及び、ブルンジ国の政治情勢が急激に悪化しないこと。

(2) 関連プロジェクトの遅れ

特になし

## 7. 貧困・ジェンダー・環境等への配慮（注）

低所得者層の主要な移動手段である公共交通サービス（バス）が改善される。

## 8. 過去の類似案件からの教訓の活用（注）

(1) 復興支援国共通の課題である、安全管理体制の整備、非常事態に対する対応の事前検討を調査開始前に行うとともに、調査開始後は現地で複数の情報チャネルを確保し、適宜、安全管理体制及び非常事態の対応方法をアップデートする。

(2) 緊急リハビリ事業に係る現地再委託に関し、平和の配当を早期に形に示すことが望ましいことから、緊急リハビリ事業の選定・計画及び実施を迅速に行うとともに適切な進捗管理を行う。

## 9. 今後の評価計画

### (1) 事後評価に用いる指標

#### (a) 活用の進捗度

- 策定された都市計画で提案されるプロジェクトが実施されているかどうか。

#### (b) 活用による達成目標の指標

- 調査で提言されたプロジェクトの実施件数
- 交通渋滞の緩和
- 移動時間の短縮
- 公共交通サービスエリアの拡大／公共交通サービス網の拡充
- バス稼働率の向上

### (2) 上記 (a) および (b) を評価する方法および時期

#### (a) フォローアップ調査によるモニタリング

#### (b) 必要に応じ、調査終了後5年目以降に事後評価を実施

(注) 調査にあたっての配慮事項